

○計画期間：平成24年4月～平成29年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

**1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況**

本市は、平成24年3月29日以降、認定された基本計画に基づき「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」を目指して各事業を実施し、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高めるとともに、中心商店街の魅力向上を図り、中心市街地の賑わい創出、交流人口の拡大を図っているところである。

平成26年3月に高岡駅周辺整備事業が完成し、この事業に合わせ高岡ステーションビル及び高岡駅地下街がリニューアルされたことにより、高岡駅改札口から高岡ステーションビルやウイング・ウイング高岡へ人工デッキを通過して通行する人の流れが格段に増加した。しかしながら、1年後の平成27年3月14日に北陸新幹線が高岡駅から南へ約1.5キロ離れた分離駅で開業したことにより、高岡駅直近部では前年度に比べ歩行者通行量は減少に転じた。

このような中、北陸新幹線の開業に続き平成27年4月25日には、重要有形・無形民俗文化財の高岡御車山を年間観覧できる高岡御車山会館が開館した。これまで、たかまちプロムナード事業や中心市街地ストリート回遊計画事業に取り組み、まちの特徴を活かした歩いて楽しいまちづくりを進めてきたところであり、首都圏を始めとした観光客が中心市街地を訪れ、複数の施設を巡ることで回遊性が生まれつつあり、観光地周辺や中心商店街においては新規出店者の増加により、空き店舗数が減少傾向に向かうなど、中心市街地への好影響が出ている。

また、高岡駅前東地区において、平成29年春の開業を目指して客室数204室のホテルが平成27年12月に、同じく統合看護専門学校を核とした複合ビルが平成28年2月に着工するなど、新たな賑わい拠点整備の動きが出てきているところである。

一方、中心市街地の居住人口は、まちなか居住支援事業の効果により、平成24年度に2棟の共同住宅が建設され増加に転じたものの、予測を上回るペースで自然減および社会減が発生しており、全体として増加には至っていない。

その対策として、平成26年4月よりまちなか居住支援事業の中古住宅購入支援の要件緩和や補助対象エリアの拡大などを実施したことにより、活用件数が増加しているところである。

**2. 平成27年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

認定中心市街地活性化基本計画に位置付けられた事業や計画については、関係者が連携を密にし、着実に進行していると評価している。

北陸新幹線の開業が中心市街地に与える影響は、プラス面ばかりではなくマイナス面もあることから、特に影響が大きい高岡駅周辺エリアの新たな都市機能の構築が必要不可欠であるため、協議会としても、行政を始めとする関係者と連携・協力しながら、必要に応じた支援等を行っていききたい。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大	主要観光施設における観光客入込み数	1,169 千人 (H22)	1,380 千人 (H28)	1,293 千人 (H27)	①	①
まちなか居住の推進	中心市街地における居住人口	16,360 人 (H22)	16,500 人 (H28)	15,230 人 (H27)	②	②
中心商店街の賑わい創出	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値	11,648 人 (H22)	14,900 人 (H28)	15,550 人 (H27)	①	①
	中心商店街(3商店街)における空き店舗数	23 件 (H22)	15 件 (H28)	21 件 (H27)	①	①

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

「観光客入込み数」については、主要事業は概ね順調に進捗しており、平成28年は、年間を通して、北陸新幹線開業による効果や高岡御車山会館の開館、観光駐車場の整備による山町筋及び金屋町の観光客増加効果が続くことが想定され、目標達成は可能であると見込まれる。

「居住人口」については、主要事業は概ね順調に進捗しており、中心市街地の居住人口の増加に寄与しているものの、それ以上に自然減及び社会減が進行しており、増加には至っていないことから、目標達成可能は見込めない。平成26年4月より、まちなか居住支援事業の中古住宅購入支援の要件緩和や補助対象エリアの拡大などを実施しており、今後も主要事業の進捗に努め、減少幅を少しでも抑えていきたい。

「歩行者・自転車通行量」については、主要事業は概ね順調に進捗しており、北陸新幹線の分離駅開業による多少の減少はあるものの、高岡駅周辺整備事業の効果による増加が継続しており、目標達成は可能であると見込まれる。

「空き店舗数」については、開業支援事業の活用実績が伸びており、空き店舗数は減少していることから、目標達成は可能であると見込まれる。

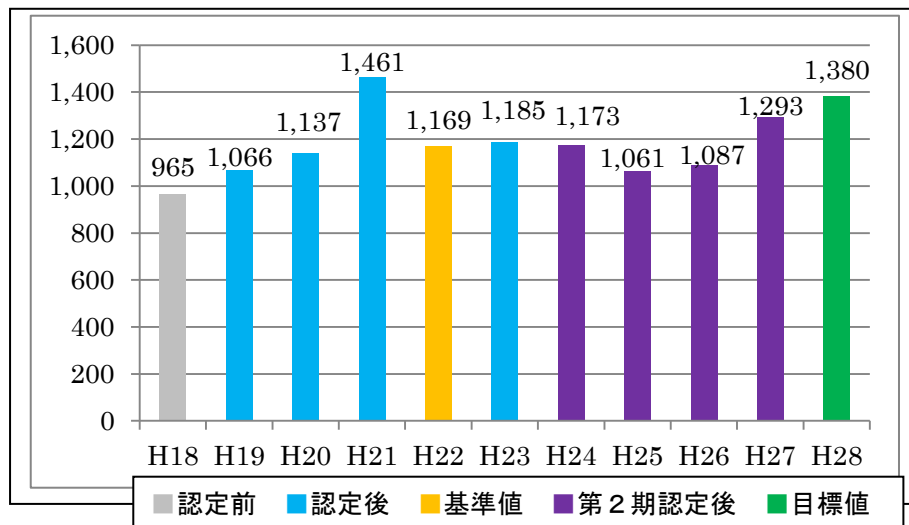
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「主要観光施設における観光客入込み数」※目標設定の考え方基本計画 P. 69～P. 78 参照

##### ●調査結果の推移



年	(千人)
H22	1,169 (基準年値)
H24	1,173
H25	1,061
H26	1,087
H27	1,293
H28	
H28	1,380 (目標値)

※調査方法：施設毎の1～12月の入込数を集計

※調査月：2月

※調査主体：高岡市

※調査対象：高岡古城公園、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館）、金屋町（鋳物資料館）

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ア. 高岡古城公園への観光客数の増加

###### ①. 高岡古城公園整備事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成24年度【済】
事業概要	高岡市の歴史的資産である高岡古城公園の園路の舗装整備や施設の改修を行うとともに、水濠の水質改善を進めることにより回遊性の向上や良好な景観形成を図る。
事業効果及び進捗状況	第1期計画から実施してきた高岡古城公園整備事業が平成24年度で完了した。この事業の実施により高岡古城公園の観光客入込数は946千人への増加を見込んでいたところであるが、実際は平成22年の830千人から、平成24年には882千人への増加であった。 その後、平成25年は773千人に落ち込んだが、平成26年は822千人、平成27年は846千人に回復している。

###### ②. 高岡城跡詳細調査事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成24年度【済】
事業概要	高岡城跡の国史跡への指定を目指して、遺構・遺物資料、文献資料等の調査からなる、高岡城の学術的価値や特徴を明らかにするための学術調査を行う。
事業効果及び進捗状況	第1期計画から実施してきた高岡城跡詳細調査事業が平成24年度で完了した。平成27年3月10日に国史跡に指定されたことから、高岡古城公園の

学術的価値が証明され、観光地としての魅力が向上し、平成 27 年の高岡古城公園の観光入込み客数の増加に寄与した。

#### イ. 山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）への観光客の増加

##### ①. 高岡御車山会館建設事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	重要有形・無形民俗文化財の高岡御車山を通年観覧できる展示館を建設し、本市の観光拠点、中心市街地の活性を図り、魅力ある観光のまちづくりを推進する。
事業効果及び進捗状況	高岡御車山会館は、平成 27 年 4 月 25 日に開館し、年間入場者数は、55,614 人であった。本事業と平成の御車山制作事業により山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）への観光客の増加は 31,000 人を見込んでいる。

##### ②. 平成の御車山制作事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	高岡で守られてきたものづくりの伝統と技術を次世代へ継承し、また、広く全国へ発信するため、高岡に息づく金工・漆工・木工等の伝統工芸技術の粋を集めた平成の御車山を制作する。
事業効果及び進捗状況	平成の御車山制作事業は平成 29 年度に完了する予定としており、制作過程を高岡御車山会館において順次公開を行っている。本事業と御車山会館建設事業により山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）への観光客の増加は 31,000 人を見込んでいる。

#### ウ. 金屋町（鋳物資料館）への観光客の増加

##### ①. 金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業（事業主体名：金屋町住民など（伝建地区内での土地・建物所有者））

事業完了時期	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	金屋町の伝統的建造物等の修理及び修景事業を実施し、歴史的景観の向上や賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業は継続的に実施している。金屋町（鋳物資料館）の観光客は約 3,700 人増加しており、本事業が寄与したと考えられる。

##### ②. 金屋町鋳物工場跡地整備事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 32 年度【未】
事業概要	高岡鋳物発祥の地・金屋町に残り、鋳物・銅器産業を象徴する遺産である鋳物工場の復元・修理に取り組み、資料保存及び見学・体験交流施設として活用を図る。
事業効果及び	金屋町鋳物工場跡地整備事業については、調査の結果、建造物の劣化が著し

進捗状況	く進んでおり、補強対応で活用することが難しいと判断されるため、整備内容の再検討が必要となった。また、他事業との関連もあり事業期間を延長し、平成 32 年度に完了する予定としており、計画期間内での事業効果は見込めない。
------	--

③. 金屋町楽市開催事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	高岡の地場産業である銅器工芸を生活空間に生かした、生活、工芸、産業が同居するゾーンミュージアムイベントを金屋町で開催する。富山大学芸術文化学部が持つ知的財産と高岡に息づく伝統技術の融合を図り、新たなものづくりの在り方を発信する。
事業効果及び進捗状況	金屋町楽市開催事業は継続的に実施しており、イベント来場者数は平成 22 年 23,600 人から平成 27 年 26,000 人に増加している。金屋町（鋳物資料館）の観光客も約 3,700 人増加しており、本事業が寄与したと考えられる。

④. 金屋町観光駐車場・トイレ整備事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	金屋町における観光客の増大と滞留時間の延長を図るため、金屋町の近隣において、観光バスや普通車を停める駐車場とトイレを整備する。
事業効果及び進捗状況	金屋町観光駐車場・トイレ整備事業は、平成 27 年度に大型バス 4 台が駐車可能なスペースを整備し、平成 28 年 1 月 22 日に供用を開始した。本事業により金屋町（鋳物資料館）への観光客の増加は 890 人を見込んでいる。

エ. 高岡大仏への観光客の増加

①. たかまちプロムナード事業（事業主体名：たかまちプロムナード会議）

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	高岡市の公共交通の中心である JR 高岡駅を起点に末広町～御旅屋通り商店街を経て、高岡大仏前、坂下町商店街に至る通りに、地域資源や新たな素材を付加した、通りを特徴付ける事業に取り組み、中心市街地のストリートビジョンと商店街の顔づくりの事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	たかまちプロムナード事業は、平成 28 年度まで実施することとしており、御旅屋通り商店街では、安らぎスポットとしてベンチとテーブルを設置し、オープンカフェを実施しているほか、末広町商店街ではナイトバザールの開催、フラッグの設置、ウォーキング事業、坂下町商店街では、高岡大仏ライトアップ、フォトコンテストの開催、のれんの設置などの事業を実施しているところである。本事業により、高岡大仏への観光客の増加は 6,300 人を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

オ. 中心市街地ストリート回遊計画事業による山町筋、金屋町、瑞龍寺の観光客の増加

①. 中心市街地ストリート回遊計画事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	観光客が一定の時間内で楽しめるよう地域特性に応じたゾーニングを行い、歩く仕組みづくりのためのハード・ソフト事業を効果的に組み合わせつつなぎ、歩いて楽しめるまちを創る。
事業効果及び進捗状況	中心市街地ストリート回遊計画事業は、瑞龍寺道の整備が平成 26 年度で完了し、歩行系サインの整備及び山町筋金屋町道路整備が平成 27 年度で完了した。本事業による観光客の増加は、山町筋が 2,780 人、金屋町が 440 人、瑞龍寺が 15,420 人を見込んでいる。

カ. 北陸新幹線開業による観光客増加

①. 新幹線開業記念広告宣伝事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	北陸新幹線開業を契機とする本市への誘客を図るため、出向宣伝や招聘、広告をはじめとする各種 PR 事業に取り組む。
事業効果及び進捗状況	新幹線開業記念広告宣伝事業は、平成 28 年度まで実施することとしており、JR 時刻表及び JR 東日本車内誌「トランヴェール」への広告掲載、出向による観光 PR などを実施している。 北陸新幹線開業を機に、本事業と食のブランド化推進事業と越中・飛騨観光圏事業により、主要観光施設への観光客の増加は 36,500 人を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

②. 食のブランド化推進事業（事業主体名：高岡食のブランド推進実行委員会）

事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	高岡の歴史、風土、食材等を踏まえた高岡らしい食を開発し、ホームページなどでの情報発信や、各種イベントでの出品、協力店舗での提供に取り組む。
事業効果及び進捗状況	食のブランド化推進事業は、「高岡昆布飯」や「高岡昆布スイーツ」などの提供により高岡の食のブランド化を推進しているところであり、今後も継続して実施していく。 北陸新幹線開業を機に、本事業と新幹線開業記念広告宣伝事業と越中・飛騨観光圏事業により、主要観光施設への観光客の増加は 36,500 人を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

③. 越中・飛騨観光圏事業（事業主体名：越中・飛騨観光圏協議会）

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	「越中・飛騨観光圏整備実施計画」に基づき、富山県西部地域と岐阜県飛騨地域の観光素材を組み合わせ、磨き、育て、新たな観光ルートを形成し、国内外に地域の魅力を発信する。

**事業効果及び  
進捗状況**

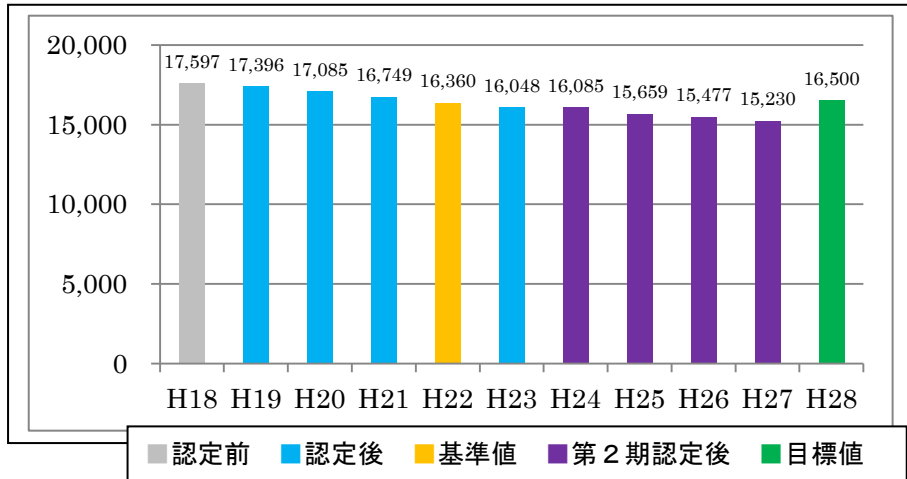
越中・飛騨観光圏事業では、宿泊魅力の向上、観光資源の活用、情報提供の充実に向けて、セカンドスクール誘致や旅行会社の招聘、観光説明会の開催、ハイウェイキャンペーン等、各種事業を実施してきた。  
北陸新幹線開業を機に、本事業と新幹線開業記念広告宣伝事業と食のブランド化推進事業により、主要観光施設への観光客の増加は 36,500 人を見込んでいる。

**●目標達成の見通し及び今後の対策**

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であると見込まれる。平成28年は、年間を通して、北陸新幹線開業による効果や高岡御車山会館の開館、大型バス観光駐車場の整備による山町筋及び金屋町の観光客増加効果が続くことが想定され、今後も主要事業の進捗に努めていきたい。

「中心市街地における居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 79～P. 84 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H22	16,360 (基準年値)
H24	16,085
H25	15,659
H26	15,477
H27	15,230
H28	16,500 (目標値)

※調査方法：地区別世帯数及び人口集計表から集計

※調査月：3月31日

※調査主体：高岡市

※調査対象：認定区域内に居住する人

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. まちなか居住支援事業による増加

①. まちなか住宅取得支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡市が認定した「まちなか居住区域」で、家屋の新築、建売やマンションの購入を行う個人に対し補助するもの。
事業効果及び進捗状況	まちなか住宅取得支援事業は、平成24年から27年度までに延べ105件と見込みを上回る利用実績があり、事業効果を現してきている。本事業により、居住人口は250人の増加を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

イ. まちなか共同住宅建設促進事業による増加

①. まちなか共同住宅建設促進事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡市が認定した「まちなか居住区域」で、一定要件を踏まえた4戸以上のアパート、マンション等を建築した者に対し補助するもの。
事業効果及び進捗状況	まちなか共同住宅建設促進事業により、平成24年度には2棟の共同住宅が建設された。平成28年度にも活用予定が見込まれ、事業効果を現してきている。本事業により、居住人口は843人の増加を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。



## ウ. 中心商店街ミニ拠点開発事業による増加

### ①. 中心商店街ミニ拠点開発事業（事業主体名：民間）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	本地区は、JR 高岡駅前を中心商店街のメイン通りに面した街区の一画を成している。周辺は、昭和 30 年代の防火建築帯として整備された建物が並んでいるが、これらは区分所有のため、建て替えが進まず老朽化が進んでいる。このため、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	中心商店街ミニ拠点開発事業は、現在、地権者等による協議会で整備計画を策定中であり、平成 28 年秋頃に着工する予定である。現時点の計画では、商業・公益施設とあわせ 98 戸のファミリータイプのマンション整備を行い、平成 30 年度に完了する予定であることから、計画期間内での事業効果は見込めない。

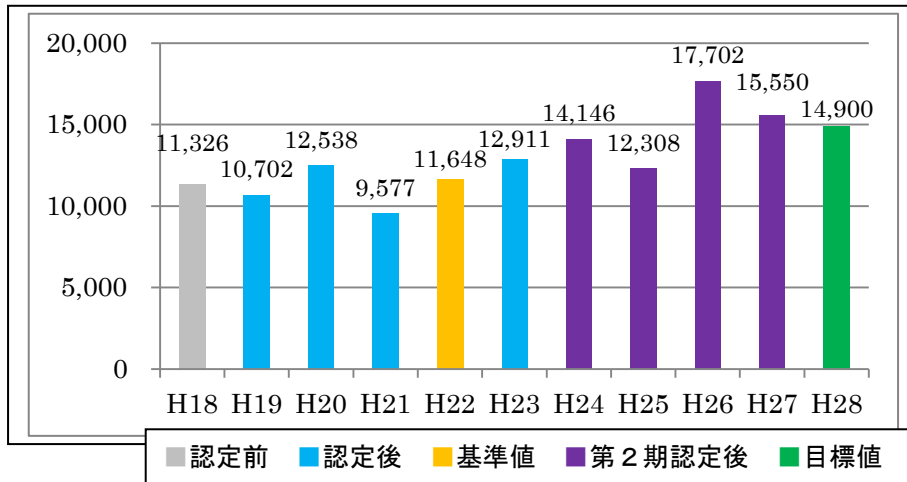
#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

まちなか居住支援事業は順調に進捗しており、中心市街地の居住人口の増加に寄与しているものの、それ以上に自然減及び社会減が進行しており、居住人口の増加には至っていないことから、目標達成可能は見込めない状況である。平成 26 年 4 月よりまちなか居住支援事業の中古住宅購入支援の要件緩和や補助対象エリアの拡大などを実施しており、今後も主要事業の進捗に努め、減少幅を少しでも抑えていきたい。

「中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」

※目標設定の考え方基本計画 P. 84～P. 93 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H22	11,648 (基準年値)
H24	14,146
H25	12,308
H26	17,702
H27	15,550
H28	
H28	14,900 (目標値)

※調査方法：平日・休日の歩行者・自転車通行量を計測

※調査月：10月

※調査主体：高岡市

※調査対象：中心商店街（6地点）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 高岡駅周辺整備事業による効果

①. 高岡駅交通広場整備事業（万葉線延伸部走行空間整備事業〔（万葉線）路面電車走行空間、交通広場整備事業〕）（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成25年度【済】
事業概要	高岡駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上を図るため、万葉線高岡駅前電停と、JR高岡駅の近接化のための交通広場整備を行う。
事業効果及び進捗状況	本事業を含めた高岡駅周辺整備事業の実施により 560 人の歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいたところ、本事業と新高岡ステーションビル建設事業と高岡駅地下街リニューアル事業の完了により、5,000 人以上の増加があり、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。

②. 高岡駅北口駅前広場整備事業（高岡駅佐加野線（北口駅広））（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	高岡駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、ロータリーの見直し等による北口駅前広場の再整備を行う。
事業効果及び進捗状況	本事業を含めた高岡駅周辺整備事業の実施により 560 人の歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいたところ、本事業及び新高岡ステーションビル建設事業、高岡駅地下街リニューアル事業の完了により、5,000 人以上の増加があり、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。なお、一部のバス乗降場および地下街への出入り口については、当初の計画より延長し、引き続

き整備を行っている。

③. 高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成25年度【済】
事業概要	高岡駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、北口歩行者専用道の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	本事業を含めた高岡駅周辺整備事業の実施により560人の歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいたところ、本事業及び新高岡ステーションビル建設事業、高岡駅地下街リニューアル事業の完了により、5,000人以上の増加があり、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。

イ. 新高岡ステーションビル建設事業、高岡駅地下街リニューアル事業による効果

①. 新高岡ステーションビル建設事業（事業主体名：高岡ステーションビル）

事業完了時期	平成25年度【済】
事業概要	富山県西部地域の交流結節点であるJR高岡駅に隣接する高岡ステーションビルの全面改築を行う。
事業効果及び進捗状況	本事業と高岡駅地下街リニューアル事業の実施により2,290人の歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいたところ、本事業及び高岡駅周辺整備事業の完了により、5,000人以上の増加があり、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。

②. 高岡駅地下街リニューアル事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	高岡駅北口駅前広場整備に合わせた改修のため、一時閉鎖・再整備の後、新規店舗及び公共スペースを入れて再開する。
事業効果及び進捗状況	本事業と新高岡ステーションビル建設事業の実施により2,290人の歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいたところ、本事業及び高岡駅周辺整備事業の完了により、5,000人以上の増加があり、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。

ウ. 高岡子育て支援センター運営事業による効果

①. 高岡子育て支援センター運営事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	御旅屋セリオ内に設置されている子育て支援センターにおいて、子育て親子の交流促進や遊びの場の提供、育児相談、子育て関連情報の提供等、子どもの健やかな育成に関する支援事業を総合的に行う。
事業効果及び進捗状況	本事業の実施により、100人の歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいる。子育て支援センターには、1カ月当たり約3,000人が利用しており、引き続き、子育て支援センターなどの御旅屋セリオ内の施設を訪れている人が、

商店街などを訪れまちなかを回遊する取り組みを進めていく。

エ. たかまちプロムナード事業、中心市街地ストリート回遊計画事業による効果

①. たかまちプロムナード事業（事業主体名：たかまちプロムナード会議）【再掲】

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	高岡市の公共交通の中心である JR 高岡駅を起点に末広町～御旅屋通り商店街を経て、高岡大仏前、坂下町商店街に至る通りに、地域資源や新たな素材を付加した、通りを特徴付ける事業に取り組み、中心市街地のストリートビジョンと商店街の顔づくりの事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	たかまちプロムナード事業は、平成 28 年度まで実施することとしており、御旅屋通り商店街では、安らぎスポットとしてベンチとテーブルを設置し、オープンカフェを実施しているほか、末広町商店街ではナイトバザールの開催、フラッグの設置、ウォーキング事業、坂下町商店街では、高岡大仏ライトアップ、フォトコンテストの開催、のれんの設置などの事業を実施しているところである。本事業及び中心市街地ストリート回遊計画事業により、歩行者・自転車通行量の増加は 220 人を見込んでいる。

②. 中心市街地ストリート回遊計画事業（事業主体名：高岡市）【再掲】

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	観光客が一定の時間内で楽しめるよう地域特性に応じたゾーニングを行い、歩く仕組みづくりのためのハード・ソフト事業を効果的に組み合わせつつなぎ、歩いて楽しめるまちを創る。
事業効果及び進捗状況	中心市街地ストリート回遊計画事業は、瑞龍寺道の整備が平成 26 年度で完了し、歩行系サインの整備及び山町金屋町道路整備が平成 27 年度で完了した。本事業及びたかまちプロムナード事業により、歩行者・自転車通行量の増加は 220 人を見込んでいる。

オ. 中心商店街ミニ拠点開発事業による効果

①. 中心商店街ミニ拠点開発事業（事業主体名：民間）【再掲】

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	本地区は、JR 高岡駅前の中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を成している。周辺は、昭和 30 年代の防火建築帯として整備された建物が並んでいるが、これらは区分所有のため、建て替えが進まず老朽化が進んでいる。このため、商業施設及び住居の複合施設に再編するとともに、来街者の利便性に寄与する公益施設を整備することでまちなかの賑わい創出及びまちなか居住の支援を図る。
事業効果及び進捗状況	中心商店街ミニ拠点開発事業は、現在、地権者等による協議会で整備計画を策定中であり、平成 28 年秋頃に着工する予定である。現時点の計画では、商業・公益施設とあわせ 98 戸のファミリータイプのマンション整備を行い、平成 30 年度に完了する予定であることから、計画期間内での事業効果は見

込めない。
-------

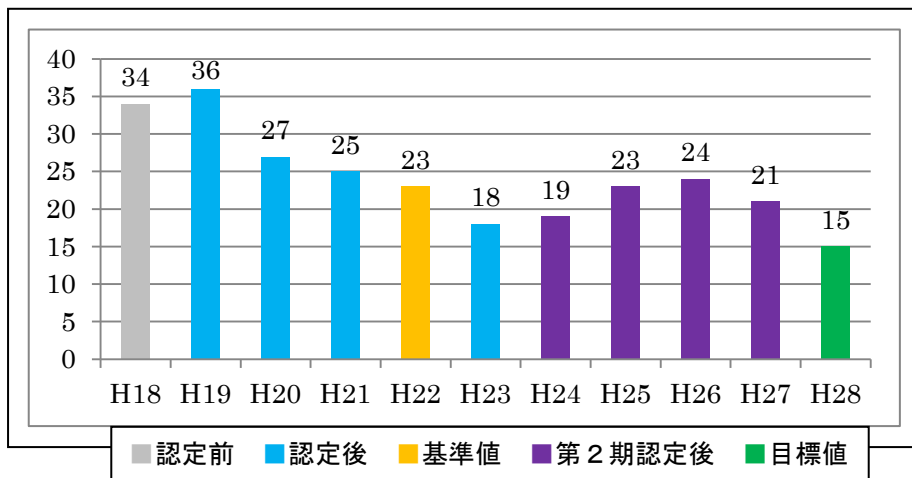
**●目標達成の見通し及び今後の対策**

主要事業は概ね順調に進捗しており、北陸新幹線の分離駅開業による多少の減少はあるものの、高岡駅周辺整備事業の効果による増加が継続しており、目標達成は可能であると見込まれる。今後も主要事業の進捗に努めていきたい。なお、高岡駅周辺整備事業の完成により、平成26年から高岡駅前の調査地点を人工デッキへと変更を行っている。

「中心商店街(3商店街)における空き店舗数」

※目標設定の考え方基本計画 P. 94~P. 96 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H22	23 (基準年値)
H24	19
H25	23
H26	24
H27	21
H28	15 (目標値)

※調査方法：現地調査

※調査月：10月

※調査主体：高岡市

※調査対象：中心商店街（3商店街）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

ア. 中心市街地における開業支援事業による効果

①. 中心市街地における開業支援事業（事業主体名：高岡市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	中心市街地の魅力向上に寄与する店舗の進出を促進するため、空き店舗を活用した開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。
事業効果及び進捗状況	平成24年度以降の本事業の活用件数は、空き店舗数調査対象区域外を含め60件以上の活用実績（調査対象の3商店街では10件の活用実績）があり、中心市街地の空き店舗数の減少に寄与している。本事業により、8件の空き店舗数の減少を見込んでおり、引き続き事業を実施していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

開業支援事業の活用実績が伸びていることから、目標達成は可能であると見込まれる。今後も、着実に事業の進捗に取り組んでいきたい。また、平成28年秋頃の中心商店街三二拠点開発事業の着工によっても、空き店舗数の減少が見込まれているところである。